



南三陸町立歌津中学校

歌津中学校だより

たつがね

教育目標 志をもち、たくましく未来を拓く生徒の育成

令和5年9月8日

第14号

文責：伊藤 浩志

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果と考察及び対策について

令和5年度の「全国学力・学習状況調査」の結果を受けた考察及び対策について保護者の皆様にもお知らせいたします。全体的に宮城県平均を上回り、全国平均同等の良好な結果でした。しかし、さらに上を目指し、今後の学習指導等に邁進してまいります。今後もと、ご協力とご支援をよろしく申し上げます。

1 国語科

国語における平均正答率及び宮城県・全国との比較

	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			合 計
	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方 に関する事項	(3) 我が国の言語 文化に関する事項	話すこと ・聞くこと	書くこと	読むこと	
歌津中	87.0	73.9	76.8	88.4	71.7	59.8	75
宮城県	68.5	64.1	75.2	81.7	62.6	64.5	70
全 国	67.5	68.4	74.7	82.2	63.2	63.7	69.8

結果の概要と考察

- ①どの項目においても、県平均、全国平均を大きく上回る成果を出している。特に「言葉の特徴や使い方に関する技法」におけるポイントが高い。国語科の言葉を根拠とした言語活動が成果に反映されたと感じる。また、ICTを効果的に活用し、叙述を根拠として説明させる学習活動が多く、見方・考え方を視覚化して示すなど、深い学びに到達する指導の工夫を行った。
- ②「読むこと」に関して、県平均や全国平均と比較するとポイントが低い状況である。言語活動による、聞くこと、話すことの力が伸びている反面、正しく読み取ることによって課題をもつ生徒が多い。問われていることを適切に把握し、その根拠となる文書を探す作業が苦手な様子が見られた。

今後の改善策

- ①問われていることを確実に把握する力を付けさせたい。そのために、トピックセンテンス、叙述に線を引かせ、問われていることとの結び付きを意識して読み取る力を育みたい。
- ②また、日常的に指導に加えて、校内研修における全国学力状況調査の対策方法を学びたい。

2 数学科

数学における平均正答率及び宮城県・全国との比較

	数と式	図形	関数	データの活用	合 計
歌津中	60.0	33.3	47.8	53.6	50
宮城県	59.7	32.9	48.7	44.3	48
全 国	63	33.2	51.2	48.5	51

結果の概要と考察

- ①県平均と比べるとどの関数以外は高い数値を示している。特にデータの活用における項目が高く、生徒の習得率の高さがうかがえる。
- ②学習の目的や数学を学習する必要性を理解して学習に臨んでいることから学習意欲が高いことがうかがえる。
- ③「データの活用」において、県平均・全国平均を大きく上回っていることから、基礎基本の定着に加えて、活用力が身に付いていることがうかがえる。
- ④「関数」において、県平均や全国平均のポイントから下回っていることから、関数の概念形成の場面、活用の場面のいずれかにおいて課題を示す生徒が多いことが分かる。

今後の改善策

- ①学習の意義を伝えながら、生徒の意欲を引っ張り出す指導を継続して行いたい。
- ②関数における苦手さを改善するために、関数概念の習得、活用、探究の場を単元計画に位置付けたい。そうすることでアウトプットする場を創出し、知識の定着・活用ができるように工夫したい。また、変化させた量・変化した量からその関係を読み取るため、関数的読解力（情報処理能力）と呼ばれる力が必要となる。国語同様に読み取る力が弱いことが現れていると分析する。そのため、全教科等した情報処理能力の向上を目指したい。

3 英語

英語における平均正答率及び宮城県・全国との比較

	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと	合計
歌津中	50.0	53.0		29.1	45.0
宮城県	57.4	50.1		21.2	44
全国	58.4	51.2		23.4	45.6

結果の概要と考察

- ①学力と関連する学習状況項目との相関関係が見られる。英語の学習を大切だと感じる点と、さらに、英語の文を全体で捉える意識が高いことから、「読むこと」における項目が県平均・全国平均に比べて高いことがうかがえる。「読むこと」に加えて、書くことは文の構造を理解させ、表現する活動をしていたことが確実な成果に結びついている。
- ②課題は「聞くこと」である。県平均・全国平均に比べて7～8ポイント低い結果となった。「話すこと」の項目の数値が出ていないが、おそらく言語活動が少なく、相手とのコミュニケーションの中で聞いて情報を収集し、話すアウトプットの活動が少なかったことが原因と考えられる。

今後の改善策

- ①話すこと・聞くことの言語活動の中で、聞く力・話す力を高めたい。
- ②特に聞くことでは、リスニングCDやデジタル教科書の音声から情報を聞き取る力を日常の授業から行っていく。また、聞き取った情報をメモさせ、互いに確認しながらアウトプットするなどの学習活動を取り入れたい。
- ③言語学習の基本は語彙を豊富にすることであるため、授業の中で既習した語彙を具体的な場面や状況を意識させながら生徒が興味・感心を高めていく場面を設定し、コミュニケーション活動を行っていく。

4 生徒質問紙

結果の概要と考察

- ①教師による認められたという実感を伴っていない生徒が一定数いる。日常的に承認活動が少ないことがうかがえる。生徒の良さを生徒の行動に事実から価値付けていくことが必要だと感じる。
- ②「将来の夢を持っているか」という問いに対して「当てはまる」と答える生徒は多いものの、当てはまらなと答える割合が県平均・全国平均に比べて高いことがうかがえる。将来の夢や目標が定まっていないことが分かる。
- ③「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という問いに対して、「当てはまる」という回答が高かったことに対して、「どちらかといえば当てはまらない」という項目も高い。このことから教師が悩みや相談の受容基地になっていないことが分かる。
- ④「当てはまる」という項目が県平均・全国平均から比べて差が大きい。生徒にとって授業・学級集団・家庭環境の3つの視点でアセスメントを行う必要がある。
- ⑤読書習慣が身に付いていない。国語の読む力ともリンクし、適切な情報を文書記述から読み取る力が低いことが分かる。

今後の改善策

- ①授業における成功体験の蓄積。良いと思う行動を教師が見取り、日常から価値付けしていくことが必要である。休み時間の教師と生徒の関わりを密にし、生徒を受容できる人的な環境調整を行う必要がある。
- ②将来の夢・目標については、日常から小さな夢を持たせ、それを達成させるなど、成功体験をたくさん積み重ねる必要があると感じる。
- ③学校が安全基地になる取り組みを行う必要がある。休み時間の何気ない関わり。授業が楽しく分かる授業となり、生徒からの信頼を獲得するなど、教師側からの積極的な行動が求められる。
- ④アセスメントツールを用いた分析と、具体的な改善方法を全教職員で共有し、実践する必要がある。
- ⑤朝読書を継続して行い、読書週間を身に付けさせる取り組みを委員会活動、学級活動を通じて、行いたい。